

◎特集

熊本城復旧への道標

# 小峰城石垣再生の歩み

5月20日、熊本県のPRキ  
ャラクター「くまモン」が本  
市を訪れ、石垣の修復が進む  
小峰城の現状を視察しました。  
熊本城（熊本市）は、熊本  
地震で石垣が数十か所にわた  
り崩落するなど、深刻な被害  
を受けました。文化財の保存  
と修復という大きな課題に取  
り組んでいる今、国指定史跡  
である小峰城石垣修復の経験  
が生かされようとしています。  
今月号では、熊本城復旧へ  
の道標となる、小峰城石垣再  
生の歩みを紹介します。

# 小峰城石垣再生の歩み



▲復元された本丸南面の石垣を見学する子どもたち（7月14日／関辺小6年生体験学習）

## 進む石垣修復

東日本大震災で10か所の石垣崩落が確認された小峰城。国指定史跡（平成22年8月5日指定）として、その歴史的価値を将来に引き継ぐため、現在、伝統工法による修復作業に取り組んでいます。

平成24年3月から平成25年9月にかけて約7,000個に及ぶ崩落石材を撤去。平成27年3月には本丸南面・搦手門・清水門、平成28年3月には帯曲輪門の石垣修復を完了しました。

現在、竹之丸南面、本丸西面および北面・雪見櫓の修復工事を行っています。

柱のゆがみや瓦の破損、壁の亀裂などが見られた三重櫓・前御門の改修工事も昨年3月に終了し、同年4月には一般公開を再開しています。

被災箇所全ての修復には、まだ数年の年月を要しますが、本市のシンボルである小峰城の再建に向けて作業を進めています。

今月号では、震災から5年目を迎えた石垣再生の歩みを紹介します。

## 伝統工法による作業

石垣の修復は、江戸時代の伝統工法を基本とし、文化財石垣としての価値を損なうことなく元の姿に戻すことを原則としています。

撤去した石は、一つ一つに墨で番号を付け、傷などの有無を調査し、「石材カルテ」に記録します。震災前の写真と照らし合わせ位置を特定し、施工図を作成、元に戻せる石、加工して転用する石、新規に購入する石に区分します。

積み上げる石は大きいもので約1トン。クレーンで現場に運び、型紙でシミュレーションを行いながら、施工図に基づき元の場所に戻していきます。1日に積み上げる石は平均で5個程度、1個につき約2時間を要します。

## 全国から石工職人が集結

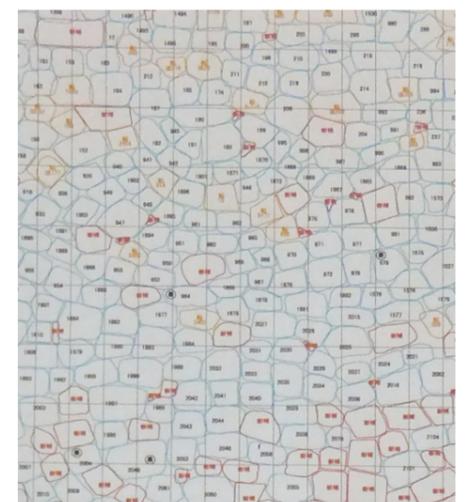
作業には経験や特殊な技術が要求されることから、現場では多くの石工職人が活躍しています。石と石がかみ合うよう職人が石材を加工し、バールで微調整を行います。

## 修復を支える職人たち



1. 本丸北面の解体作業 2. 追廻地区での石材調査 3. クレーンを使った積み上げ作業 4. プラスチックの型紙を使った石積みシミュレーション 5. 石材加工の様子 6. 石の積み上げ作業 7. 地元石工職人の土門さん

## 主な被災箇所の修復状況（7月末現在）



▲石垣の積み上げ施工図（本丸南面の一部）  
1つ1つの石に番号を付け崩落前の写真と照らし合わせ位置を特定。この図を基に石を元の位置に忠実に積み戻していきます。

## Interview

石工職人さんに聞きました

### 技術の継承に力を注ぐ甲州の石工職人

先代から技術を学び、石工職人として全国各地の現場で仕事をしてきました。江戸城や甲府城などの石垣修復の経験を生かし、3年前から小峰城で石垣の修復現場を指揮しています。

文化財の修復は、先人が築いた石垣を元の姿に忠実に戻すことが原則。この点に一番気を使いますが、一方でやりがいにもつながっています。

現在職人の数は16人。今まで50

人近い職人がこの現場で働いてきました。若い人から年配まで、出身、年齢は様々ですが、中間層の人材が少ないことから、後継者の育成にも力を入れています。

特に地元の職人の方には、この貴重な機会に、現場で石垣の修復について学び、技術を継承していくことで、将来にわたり美しい小峰城の石垣を守り続けていってほしいと思います。



石工職人（親方）  
五味 博さん（山梨県甲州市）



1. 竹之丸南面石垣修復現場の一般公開（7月3日） 2. 体験学習で作業現場を見学（関辺小6年生） 3. 修復された石垣を見上げる見学者

**石垣修復の状況を公開**  
市では、崩落した石垣修復の状況を市民の皆さんに公開しています。  
平成23年10月、平成24年9月に崩落状況の見学、平成25年12月からは毎月1・2回の修復現場の公開を行い、石垣

## 次の世代に語り継ぐために

が復元されていく姿を市民の方が自分の目で見て確認できるようにしました。  
今年度も竹之丸南面などの一般公開を開催しています。  
今後小峰城の歴史や文化財復旧への理解を深めていただけよう、修復の過程を定期的に公開していきます。

## 鈴木市長が熊本市を訪問

### 熊本市長と会談

6月9日、鈴木市長が熊本市を訪問しました。4月の地震発生以降、市では熊本市からの要請により、崩落した石垣の復旧について、アドバースや情報交換などを行ってきました。

大西熊本市長と会談した鈴木市長は「文化財の復旧は心の復興につながる。小峰城の修復で培った経験や知恵を惜しまず提供していきたい」と熊本城の再建に向け、引き続き支援を行うことを約束しました。

### 小峰城の経験を伝える

鈴木市長は、小峰城の復旧工事で使用した資料や現場の写真を持参し、崩落した石垣一つ一つに番号を付け崩落前の写真と見比べ元の位置を特定したことや施工図を作成したことなど、小峰城の修復で学んだことを伝えました。

大西熊本市長は、「小峰城の修復や福島の復興を進めている中、熊本のことを気にかけていただきありがたい。白河市の経験を参考にさせていただき、一日でも早い熊本城の再建に向け力を注ぎたい」と感謝を述べました。

### 想像以上の被害に

大西熊本市長との会談を終えた市長は、河田熊本城総合事務所長の案内で、熊本城を視察し、現地の担当者とともに崩落した石垣の状況などを確認しました。

熊本城は、国指定重要文化財13件を含む建造物32件全てが損壊、石垣全体の約1割にあたる8、200㎡が崩落しました。

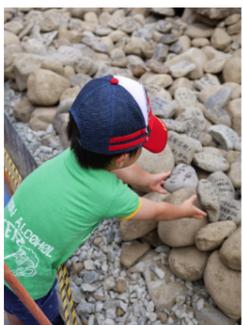
現地のメディアから取材を受けた鈴木市長は「想像以上の被害。熊本城は復興のシンボルになる。再建に向けて、出来る限り支援したい」と熊本城復旧への強い想いを語りました。

### 石垣修復現場一般公開

石垣積み上げ作業を行っている竹之丸南面などの現場を一般公開します。普段見ることができない石垣の裏側の様子も見学できます。  
●開催日 8月11日(祝)、9月4日(日)、10月2日(日)、11月6日(日)、12月4日(日)  
●公開時間 午前10時～午後3時  
※天候や工事の状況等により、中止になる場合があります。

### 小峰城跡石垣イベント

復興への思いを裏込め石に書いてみませんか。  
●開催日 8月11日(祝)  
●時間 午前10時～午後3時  
●参加費 無料  
※1口2000円の小峰城郭復元基金への寄附をお願いします。



文化財課 ☎2310

### Interview

## 試行錯誤を繰り返しながら

市の担当者に聞きました



▲熊本城でアドバイスをを行う都市政策室長兼文化財課長鈴木 功

震災から5年の月日が流れ、大きな被害を受けた小峰城も、昨年には本丸・三重櫓までの一般公開を再開することができました。

震災直後は、10か所において崩落した石垣をどのように修復するか、費用は、期間はどうかなど多くの課題がありました。

しかし、文化財石垣としての価値を損なうことなく、伝統工法による修復を行うことを早期に決断し、復旧作業に取り掛かることができました。

こうして、被害状況の記録化、崩落原因の究明、崩落石材一石ずつに

番号を付しての撤去、石材カルテの作成、崩落前の写真からの位置の特定、江戸時代の構築技術の解明、工事箇所の公開など行ってきました。

崩落前の写真だけを頼りに、石垣を元の形に復元するのは、気の遠くなるような作業ですが、修復された石垣の姿を見た市民の方から「元の姿に戻ったね」と言っていた時、役割の一端を果たせたような思いでした。

毎日が試行錯誤の繰り返しですが、小峰城の経験が道標となり、一日も早い熊本城の復興につながるよう心から願っています。



1. 頼当御門からみた石垣崩落の状況 2. 飯田丸五階櫓を支える石垣 3. 現地のメディアから取材を受ける鈴木市長